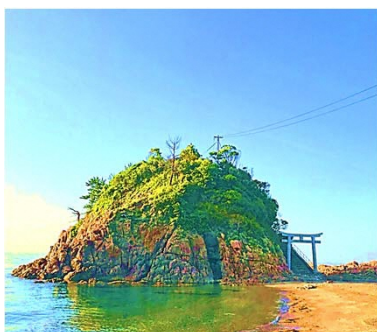


Hagi-Iwami Airport

IWJ

多様な役割を果たす空港

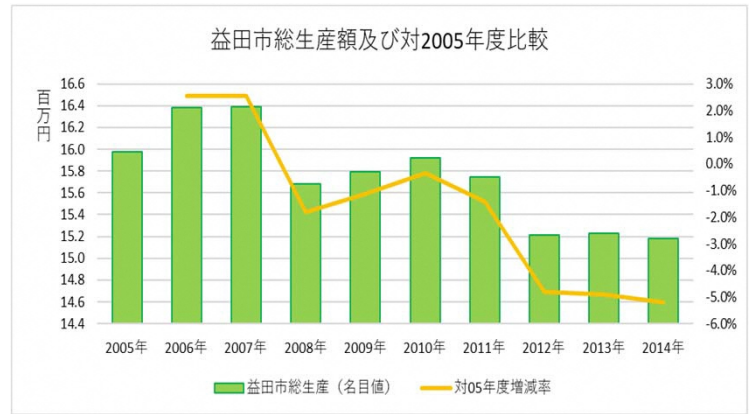
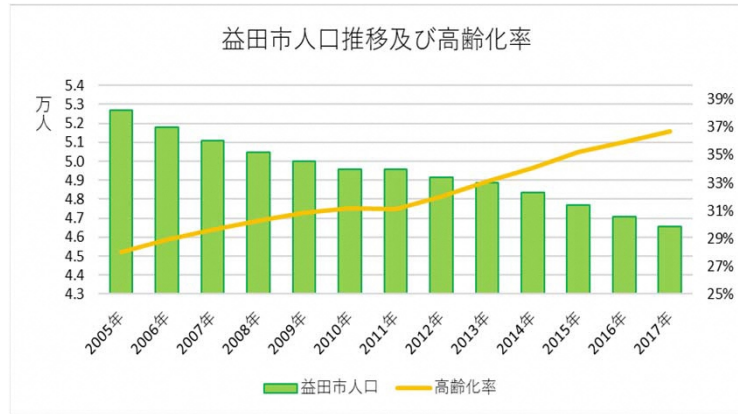


地域振興における空港の役割

1. 人口減少と経済の低迷

日本の地方は人口減少と高齢化が深刻化していますが、益田市も例外ではありません。左下図を見ると、美濃郡と合併した2005年の益田市では、人口は約5.2万人でしたが、2017年には約4.6万人にまで減少しました。

他方、右下図は益田市の総生産額の推移を表していますが、明らかに伸び悩んでいます。地域の活力を一刻も早く取り戻すため、とりわけ生産年齢人口の流失を食い止めるとともに、より高い付加価値をもたらす産業政策が求められています。空港は産業を支える基盤として重要な役割を担っています。



(出典) しまね統計情報データベースより作成

2. 益田市のこれまでの取り組み

益田市は津和野町および吉賀町とともに高津川流域都市交流協議会を組織していますが、同協議会を通じて首都圏の3市区と、友好都市交流を行っています。また、益田市は友好都市の川崎市と協力して、公開された特許を有効活用した新ビジネスの創出支援も行っています。

民間レベルでも商工会議所どうしの経済交流を行っていますし、さらに島根県立大学をはじめ、首都圏の大正大学や東洋大学など、大学との連携を通じて学生らの学びの場を提供しています。

3. 「関係人口」に対する期待の高まり

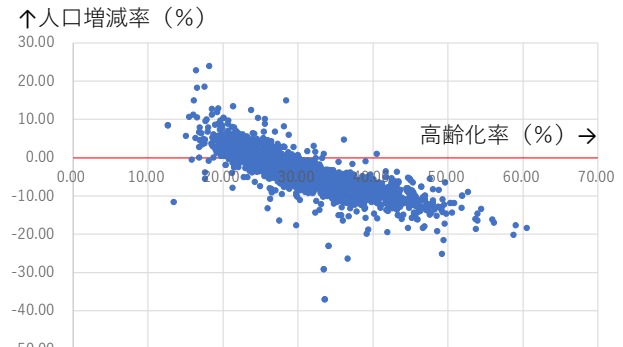
最近、「関係人口の拡大」が重要だとよく言われます。図1に示すように、一般的に人口が減少するほど（人口増減率が下がるほど）、高齢化率は高まる傾向があります。高齢化率の高まりを抑制することは、地域経済の発展のうえでは不可欠です。

他方、人口減少や高齢化によって地域づくりの担い手が不足していますが、幸運にも20代から30代の若い人が地方への移住に関心を持つようになっていきます。

図2は地方移住を支援する相談窓口「特定非営利活動法人ふるさと回帰支援センター」の利用者の年齢層を示したグラフです。このグラフから、近年では20代や30代の若い世代による相談が半分近くを占めるに至っています。全体の利用者数も伸びていることから、期待できるでしょう。

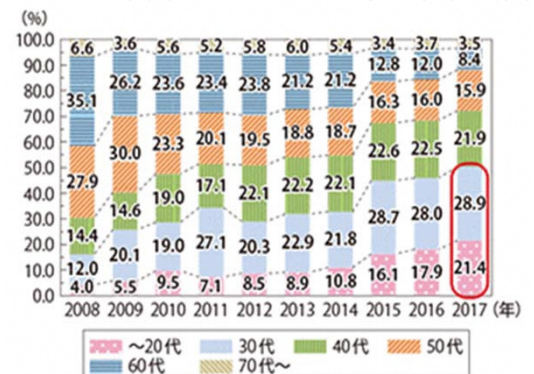
今後は地方に関心を持ってもらうきっかけづくりが、より一層重要になると思われます。

図1：高齢化率（横）と過去5年の人口増減率（縦）



(出典) 総務省「国勢調査平成27年調査結果」から作成

図2：ふるさと回帰支援センターの利用者層の推移



資料) 認定NPO法人ふるさと回帰支援センター資料より国土交通省作成

(出典) 「平成29年度 国土交通白書」から抜粋

4. 関係人口の意義と交通インフラの役割

関係人口は、「地方には住んでいないものの、地方側の一員として関わりたいという人々」のことです。地方側として関わり、地域外の人々が地方づくりの担い手になることが期待されています。

今後、地方に関心を持つ人の増加、つまり関係人口の拡大は地域経済を支えるためには不可欠です。交流の機会を増やすには、交通インフラを整えておかなければ、そのスタートラインにも立てないのです。萩・石見空港は、首都圏を結ぶ重要な交通インフラです。

こうしたインフラの持つ基本的な効果を再認識し、それを最大限生かすべきではないでしょうか。東京・その他の地域との交流がますます盛んになることで、地域の将来はより明るくなるのです。

「～命をつなぐ空港～」

災害時の空港の役割って

どんなだろう？

台風や地震などの災害が発生すると、空港では航空券の払い戻し等で空港力ウンターは大混雑。こんな映像を見たことのある人も多いでしょう。
しかしメディアではあまり取り上げられない、災害時の空港の役割・姿がありました。

災害時の空港の役割として、真っ先に挙げられるのが、陸上交通の代替輸送です。鉄道や車は、線路や道路といった線で結ぶインフラが必要ですが、航空の場合には空港という点のインフラで機能します。

緊急支援物資の輸送

空からの被災者の救助や被害状況の把握、緊急支援物資の輸送など、私たちの安全・安心な暮らしを支える重要な役割があります。

航空機

つまり、線路や道路は寸断が生じやすいのに対し、発災直後から救済・救助のための航空機



▲図① 災害時の福島空港の駐機場の様子(福島県庁HP)



救いの拠点空港 ～福島空港～

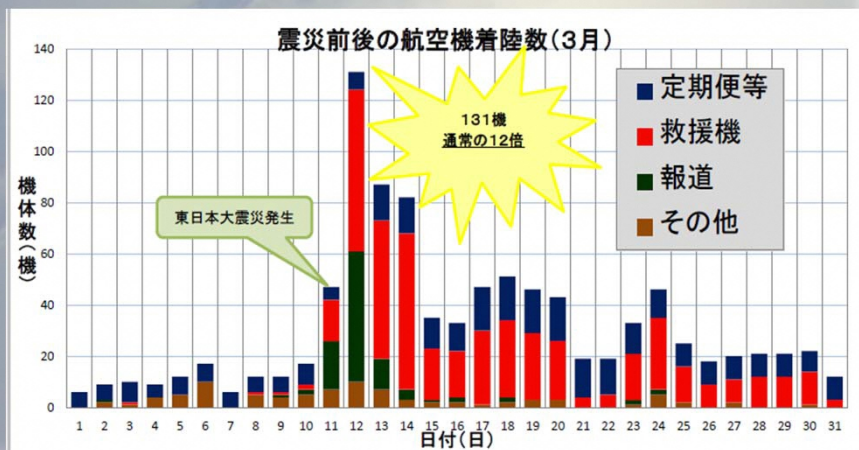
平成23年3月11日の東日本大震災の発生後、福島空港では救難救助、旅客臨時便の運航、救援物資の受け入れ、マスコミの取材等、**防災拠点として大活躍**しました。
全国からの**救援ヘリの拠点としても活用**されました(図①・②を参照)。特に原子力災害派遣や大規模地震災害派遣、現地調査団等として集結した全国各地の自衛隊の部隊は福島空港を拠点にしたのです。
世界各国の輸送機も次々に飛来し、救援活動にあたりました。



▲図② 誘導路及び緑地帯に並ぶ防災ヘリコプター(福島県庁HP)

震災時の福島空港

▼福島空港の震災直後の航空機着陸数(福島県庁HP) 図④



この時は、通常の約十二倍となる百三十一機の航空機が離発着しました。(図④を参照)



▲福島空港に駐機している韓国の支援機(福島県庁HP) 図③

(図③を参照)

観光客にとっての空港

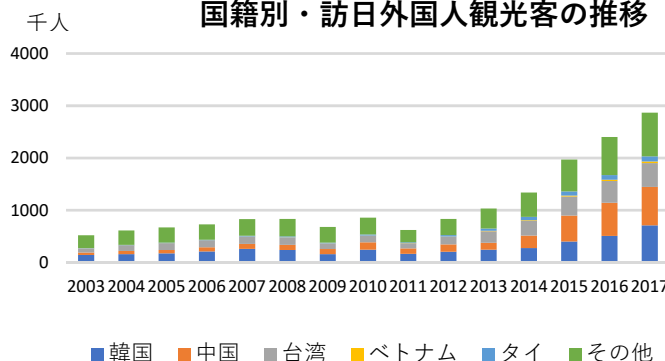
国全体の観光の動向

わが国の代表的な観光政策には2003年の「ビジット・ジャパン・キャンペーン」から、2006年の「観光立国推進基本法」の制定などがあります。外国人観光客増加のために現地の消費者、旅行者向けの旅行博出展やイベント開催などをおこなう取り組みがありました。

このような取り組みの結果、外国人観光客の数は年々増加しており、2020年の外国人観光客の目標値である4000万人はほぼ確実に達成できると考えられ、2016年には2030年の外国人観光客の目標値を6000万人とされました。

訪日外国人観光客の国籍は、東アジア、東南アジア諸国が中心で、これからもこの流れは大きくは変わらないと考えられます。

国籍別・訪日外国人観光客の推移



出典：JNTO(日本政府観光局) 「月別・年別統計データ(訪日外国人・出国日本人)」
https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/visitor_trends/index.html

日本に来る外国人の傾向

日本に訪日する外国人観光客は毎年増加しています。外国人観光客の中でもリピーターになる割合は60.4%となっています(2015年実績値)。地方にとっては、こうしたリピーターの獲得は期待されますが、どうやって獲得するかは課題でもあります。

リピーターとなるような人は、世界各地も見回っている可能性が高く、地方の宿泊施設としては個性を磨きサービス品質を高めることが必要になるでしょう。

また、地方に関心を持ってもらうリピーターを増やす取り組みも必要です。都市圏で宿泊施設が不足していれば、そうしたチャンスを奪いかねません。2020年のオリンピック・パラリンピック開催に向けて宿泊施設の不足は一刻も早く解決すべき課題です。

私たちから一言！！

- 萩・石見空港は島根県西部の観光にとって重要なゲートウェイです
- 空港活性化は、観光活性化の一部でもあります。そのためには行政や旅行業にかかわる方々だけでなく、飲食業やその他さまざまな主体との協力関係が重要だと思われます！
- 外国人観光客を増やすための取り組みが急務です。外国人の訪問者が少ないのは単にPR不足でしょうか？県内だけにとどまらず、県をまたぐ広域連携による誘客がますます重要になると考えます！

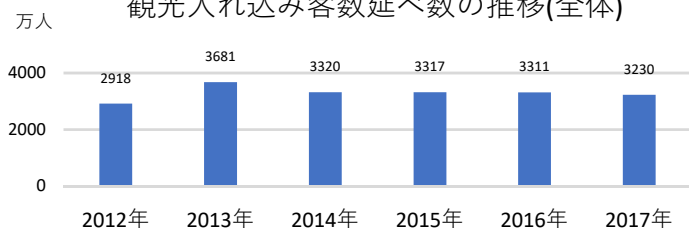
島根県の観光

島根県に訪日する観光客の数は、このところ大きな伸びがみられないのが実情です(以下の図を参照)。また本県は東西両端の距離は155kmにもなるため、観光客の動きとしても一気に島根県を東西に横断する行程を組むことはほとんどありません。

さらに島根県は、外国人観光客が日本で一番訪れない県とされており、2017年の外国人旅行者数は6万7千人にとどまっている現状があります。

このような課題はありますが、観光は地元の観光業のみならず飲食店などのサービス業、運輸業など様々な分野に貢献します。観光振興は地域振興のためにも重要な政策課題といえます。

観光入込客数延べ数の推移(全体)



出典：島根県「平成29年島根県観光動態調査結果」から作成

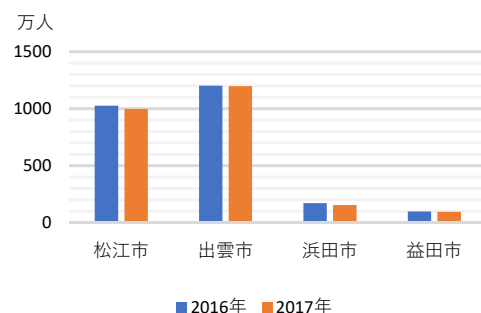
地域に合った観光スタイルを

島根県を訪日する観光客は全国的な知名度のある観光地の多い東部に偏っています。しかし、県西部の石見には石見銀山や津和野といった、観光客にも高い評価を得る地域があることを忘れてはいけません。

また、最近の観光のトレンドとして、人との繋がりや、その地域の文化を肌で体験できるような旅行スタイルが人気です。

トレンドは時代とともに変化するため、売り手となる地域も時代に応じてダイナミックに変化し続ける必要があります。

観光入込客数の動向



出典：島根県ホームページ

島根県外
出身の

大学生が石見の魅力発見！！

益田市には素敵な観光地がたくさんある
と思ったよ！

中でも、匹見峡は絶景だったな～。
川の水がとにかくきれいで、透明度がす
ごかった。さらに、空気もきれいで、都
会育ちの僕（自称）には、驚きしかな
かったな。空気が澄んでいるから、夜は
星がとても綺麗で、今まで見た中で一番
きれいだったなあ！

他にも最近ではサイクリングロードも
整備され始めているらしいね。全国の観
光客が殺到する前に益田市に行かな
きゃ！



▲匹見峡

大田市には世界遺産にも認定
された石見銀山があることは有
名だね！

だけど、江戸時代の街並みが残
る大森地区を見て回ることもで
きるサイクリングルートもある
ことは知らなかった！

古民家カフェもあって、普段
とは違う体験ができておすす
め！コーヒーに癒される～！



石見地域ではマリンスポーツもウィン
タースポーツも楽しめるから一年中楽し
める！

マリンスポーツの中でも浜田では
「SUP」というサーフィンとはまた違っ
た珍しいスポーツをやっている人もいる
んだ。大会まであることは知らなかった
な…とても楽しそうで、僕も挑戦してみ
たい！

近くには「島根海洋館アクアス」も
あって、シロイルカのショーやペンギン
のショーがみられるよ。小さい子供だけ
でなく大人も楽しめるし、伝統芸能・石
見神楽の公演をやっていたり、飽きるこ
とはないね。



▲スノーボードを楽しむ学生た
ち



▲浜田の海

島根県の西部にある津和野町では
西洋の雰囲気漂う教会や弥栄神社な
ど多くの観光地がある。「山陰の小
京都」って言われるんだ。殿町通り
の横に流れる小川には鯉がいて町全
体が穏やかな雰囲気。

僕が津和野に行って一番の思い出
は源氏巻がとってもおいしかったこ
とかな。出来立ての源氏巻はあった
かい生地とあんこがとってもおいし
かった。

他にも太鼓稲荷神社では鳥居がた
くさん並んでいてインスタ映えは間
違いなし！！



▲萩の景色

山口県の萩では「明治日本の産
業革命遺産」が世界遺産登録され
るなど、江戸明治時代の建物が多
く残り、松陰神社では昔ながらの
風景を楽しむことができる。

入館料も高すぎず
大学生のお財布にも
優しい観光地で巡り
やすいと感じたよ！

▼広島県出身の入道さん



▲大分県出身の佐々木君

Message from the Editors

平野裕介

島根県立大学3回生

私の担当は、「地域振興における空港の役割」でした。日本全国で人口が減少傾向にある中で、ある意味で今後の我が国が直面する課題を真っ先に経験する地域でもあります。

空港は鉄道・バスとは比較にならないほど遠方からのアクセスが容易です。交流人口の拡大を進めるうえで、交通を無視することはできません。

その点で、萩・石見空港の役割はますます大きくなると思います。



島根県立大学3回生

江川葵

今回の特集で私は災害時の空港を取り上げさせていただきました。調べていく中で自分が持っているイメージと全く違う空港の働きを知りました。記事では東日本大震災で被災した東北の救援における基地として機能した福島空港を取り上げました。自然災害の多い日本では、どの地域も同じように重要な災害発生時の拠点になると期待されます。

災害時の空港など、あまり知られていないかもしれません。地域の安全・安心を支える重要なインフラだと感じました。



観光は全国的に盛り上がりを見せていますが、今回、国や県内の観光の実態について調べるうちに改めて空港の存在の大きさに気づかれました。

古きよき時代をたっぷり堪能できたり、自然豊かな環境でアクティビティを楽しむこの地域の魅力に改めて気づかされました。

癒しの場として県外、とりわけ東京の方々に、この地域の良さを知ってもらうことを通して、萩・石見空港の利用促進に少しでもつながればいいと思います。

今回のリーフレット作成の中で、私は「観光を支える空港」をテーマに取り上げました。島根県外出身なので石見地域の観光地についてあまり知りませんでしたが、自分で足を延ばしたりすることで、改めて魅力を発見できた気がします。ズバリ、今回のポイントは「地元の人には気づきにくい石見地域の魅力」です！

このリーフレットを通してより多くの人に石見地域の観光資源の魅力について再確認してもらえれば嬉しいです。

佐々木雄也

島根県立大学2回生

島根県立大学2回生

入道未来

次回予告～次回は私たちが担当します！

2月発行
です！！

次回は他空港の取り組みと地方空港のあり方を紹介します！！

発行：島根県立大学西藤ゼミ
〒697-0016

島根県浜田市野原町2433-2
島根県立大学研究棟313号室
TEL：0855-24-2264



リーフレットについてご感想をお寄せください。

(Google formによるアンケートに移動します)

